

■児童・生徒の学力の状況

- 読み、書き、計算の基礎知識は定着している児童が多い。
- 各教科において文章や資料からを読み取り、文章の趣旨や問題の意図を大まかにとらえることができている。
- 「全国学力・学習状況調査」の結果から、国語、算数ともに選択式や短答式の問題への正答率が高く、記述式の正答率が低い傾向であった。
- 読み取ったことから考えて書いたり、理由を考え書いたり説明したりすることに苦手が見られる。
- 問題を現実社会と結びつけて考えたり、具体的に想像したりしながら自分の考えをもつことに慣れていない。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題

- 考えや意見、めあてが達成できたかを児童自身が自分の言葉でまとめ、表現する時間を十分に取ること。
- よく読み、必要なことを整理し、発信する手法を身に付けさせること。
- 児童一人ひとりの考えを交流する場面で、対話を通して互いを高め合い、深い学びにつなげる工夫をすること。
- 既習事項を振り返ったり、自分のペースで学習を進めながら、学び方を選び（自己選択）、決め（自己決定）、調整する（自己調整）力を育んでいく学習の機会を設定すること。

■学校経営方針より（学力向上に関わる内容から）

- 板橋区授業スタンダードの徹底し、毎時間の「ねらい」を明確に示し、振り返りの時間を確保する。
- 学年や教科、単元に応じたスタンダードSの実施を図る。
- 児童の声をつなげて授業を進める、一問繋ぎ型の授業を展開し、1単位時間に認識、思考、表現の流れを取り入れ、読み解く力を身に付ける指導を実施する。
- タブレット端末やICTの活用による個別最適な学びと協働的な学びの充実。デジタルツール活用による学習の深まり（入力だけでなく、活用・表現へ）を目指す。
- 校内研究として「書くこと」を通して、自分の思いや考えを表現する子どもの育成を図る。
- 「学力向上推進週間」「ステップアップ・タイム」「朝学習の時間」を活用し個に応じた指導の充実を図る。朝の学習時間には学習と読書を計画的に実施する。
- 小中一貫教育に向け、「しみず学びのエリア」9年間で「地域」を課題に探究する力が身に付くよう、学び方の共有・共通化を図る。

■授業革新推進に向けての具体的な方策

視点1 板橋区授業スタンダードの徹底、及び板橋区授業スタンダードSの取組	視点2 読み解く力の育成	視点3 総合的な学習の時間との連携
○めあて・問題・考え・まとめ・振り返りの共通のカードを使い、授業の流れを明確にする。 ○学習のまとめを自分の言葉で書けるように振り返りの時間を十分に取る。 ○教員が単元等を選択し、児童が自分に合った学習内容、方法、ペース、順序を自己選択して学ぶ場面を設定する。	○INPUT→THINK→OUTPUTを授業に設定する。特に主体的にOUTPUTする場面を設定する。 ○昨年までの研究「読み解く力の育成」を引き継ぎ、本年度は「書くこと」を通して自分の思いや考えを表現する児童の育成をめざし授業力向上に励む。	○単元配列表に総合的な学習と各教科との関わりが分かるよう明記し、各教科等で学んだことを総合的な学習の時間につなげられるようにする。 ○小中一貫教育の視点から「地域」を課題にした探究学習を行い、学びのエリアで交流を実施する。

■いたばし学び支援プラン2025の実現に向けた具体的な取組

小中一貫教育の推進	カリキュラム・マネジメントの推進	ICT環境の適切な維持と活用 個別最適な学び・協働的な学びの実現
○読み解く力の育成を見据えた視点から「読み解くタイム」を設定する。低学年ではMIMを実施し、読みの力のスモールステップで段階に応じた取組を行い、確実な読みの力の習得を目指す。 ○しみず学びのエリアの小中連携主題「コミュニティを探究する～主体的に他者や社会に関わる資質・能力の育成」に向け教員・児童の交流を行う。	○総合的な学習の時間を活用して郷土愛の育成に努める。地域人材やゲストティーチャーを専門家として招聘し、様々な学習で積極的に児童と出会いの場を設定することで学習環境の充実を図る。 ○総合的な学習の時間を柱として小中のつながりも意識した単元配列表を活用し、教科横断的な視点で取り組んでいく。	○自分のペースで何度でも学習課題に取り組める場を設ける。 ○「かかわり合い」「学び合い」を意識した学習活動の工夫する。 ○自己調整型の学習を実施し教員間で共有できるようにしていく。 ○ICT担当教員とGIGAスクール支援員を中心に教員のICT活用能力向上のための研修を活性化する。